

令和5年度関東高等学校選抜水球競技大会 兼 第45回関東地域春季水球競技大会 【戦評】

会場：千葉県国際総合水泳場 【2023/6/18】

この試合のプレー集計

準決勝

明大中野 6

2	—	2
2	—	2
1	—	2
1	—	4
PSO		

10 埼玉栄

審判： 田原 忠雄
新井 陸士

明 大 中 野	23	SH数	18	埼 玉 栄
	1	速攻数	3	
	5	ST・SB	4	
	2	SH・P誘発アシスト	4	
	33%	GK阻止率	54%	
3	EX反則数	3		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

現在の實力把握の意味で試金石となる一戦。實力的には互角で、どうゲームの流れを引き寄せられるかが勝負の分かれ目となりそうな展開。

1P

序盤は双方、慎重な戦いであったが、栄のシュートを明中GK①大塩がセーブ、それを起点に3-2速攻を繰り出し、明中⑨森川が決めて明中が先制。さらに、続けて栄のオフェンス反則から同様の3-2速攻、最後は⑥角道が右サイドから決めて連続得点。ここで、栄ベンチはタイムアウトを取ってチームを落ち着かせ、再開後、右へのパス展開から⑦松原→左サイドの⑩市野に渡って1点を返した。このプレーがその後に影響し、栄は右展開起点での攻撃が継続するようになった。1P終了間際、右サイドドライブした⑧皆川がペナルティを誘発し、⑦松原が決めて同点に追いついた(明大中野2-2埼玉栄)。

2P

栄のDFがかなり機能する展開となり、明中はなかなか攻撃の糸口がつかめない。明中のセットが広がり、パスの距離も伸びたことで正確性を欠く展開となった。その中、明中のパスをGK⑬大木が奪ってからの速攻を⑧皆川が決めて栄がリード。さらに明中のシュートをセーブし、⑤伊藤の右サイドからの攻撃でペナルティを得て、⑧皆川が決めて栄が2点差とした。しかし、明中もすかさずセンター位置で②濱口が決め、さらにピリオド終了直前に栄のシュートミスから泳いで⑩南の右サイド突破でペナルティを誘発。⑨森川が決めて同点で前半を折り返した(明大中野4-4埼玉栄)。

3P

試合全体のリズムとしては栄ペース。常にボールを右展開し、それに呼応してセンターや左サイドでの位置取りで優位に立つことが多く、明中側は栄のミスに救われていた。第3ピリオド開始1分ごろに栄が2-1速攻の絶好機。この速攻SHを明中GK①大塩が防ぎ、そこを左45°位置で②濱口が決めて明中が一步リード。しかしその直後に栄も左45°位置で⑩市野が切れのいいシュートを決めて再び同点に。さらに明中のシュートミスを突いて右展開攻撃。そこを右45°から主将④永井が決めて、明大中野5-6埼玉栄で最終ピリオドへ。

4P

最初の攻撃権は明中で、シュートまで持ち込むものの栄GK⑬大木がセーブし、そこからの③伊藤による右展開攻撃。タイミングよくセンターに入った主将④永井にパスが渡って追加点をあげて2点差に広げた。明中は攻撃リズムが十分でない段階でシュートを放ち、そこを栄に突かれて⑧皆川にループシュートの6mSHを決められて3点差。再開後に明中⑨森川が威力十分のシュートを決めて2点差に縮めるが、最後まで栄ペースは崩れず、最後は左サイドから2連続得点をあげて明大中野6-10埼玉栄という完勝で、埼玉栄が決勝進出を決めた。

埼玉栄側からすれば、終始右サイド起点の水球ができたこと、特に③伊藤が「これでもか」というくらいに右奥へ泳ぎ、そこを起点のセンター、左サイドからの動きで明中を圧倒したことが勝因だった。逆に言えば明中の攻撃が左サイドからの単調なシュートが多く、そのタイミングで栄の右展開攻撃を許してしまったことの裏返しでもある。夏のトップシーズンでの両チームの成長を期待したい。